

蒔絵の真価を探るⅣ

— 漆芸品の国宝拾遺 —

ナカサトトシカツ

講師＝中里壽克（東京文化財研究所名誉研究員）

時間＝14:00～15:30

受講定員＝20人

受講料＝9,500円

テキスト：各回、内容に関連した資料（珍しい写真や意匠など）を配付します。

※配付資料は全回分ご持参ください。

参考書：「日本の美術」シリーズ（至文堂）
〔図書館などをご利用ください。〕

スケジュール

- ① 10月2日（金）玉虫厨子（国宝）法隆寺
- ② 10月9日（金）蓮唐草蒔絵経箱（国宝）奈良国立博物館
- ③ 10月16日（金）宝相華蒔絵経箱（国宝）延暦寺
- ④ 10月23日（金）蝶蒔絵手箱（国宝）畠山美術館
- ⑤ 10月30日（金）秋野鹿蒔絵手箱（国宝）出雲大社
- ⑥ 11月6日（金）古神宝の手箱類（国宝）熊野速玉大社
- ⑦ 11月13日（金）松田権六の蒔絵

講座内容

展覧会等に出品される国宝・重文指定の漆芸品が、どこにその価値があり、どんな歴史を持ち、どこにその魅力を秘めるかについて、「蒔絵の真価を探る」というテーマで三期にわたって様々な名品を取上げて来た。

平安時代の手箱が大好きといっても本当はどこを見たらいいのかわからなくなってしまうのが普通である。

今回はこれまで取上げなかった国宝を含めて、重要な名品を拾い出し、「漆の神様」と云われた現代の名工松田権六の作品の見所も探り出してみたい。

講師プロフィール

東京藝術大学美術学部卒業、同大学院修士課程修了。東京国立文化財研究所（現東京文化財研究所）修復技術部第一修復技術研究室長を務めた後、平成18年度まで鶴見大学文学部教授・同大学院文学研究科文化財学専攻博士課程指導教授。これまでに、奥州平泉中尊寺金色堂の解体修理、法隆寺献納宝物・正倉院宝物・平等院など漆芸文化財の調査・分析・修復を数多く手がける。